

想像界の生物相

## メキシコ仮面に見る クリーチャーたち(2) ——テロロアパンの悪魔

ブリティッシュコロンビア大学人類学博物館長  
アンソニー・シェルトン



資料名 | 悪魔仮面  
標本番号 | H0144463  
地域 | メキシコ  
サイズ | 高さ 69cm

資料名 | 悪魔仮面  
標本番号 | H0108389  
地域 | メキシコ  
サイズ | 高さ 51cm

### ◆◆善と悪のはざま◆◆

メキシコにおける悪魔は、境界的で、どっちつかずな存在である。初期のキリスト教宣教師たちはメキシコ土着の神々を、聖書の墮天使とギリシア古典に登場する怪物たちのイメージが融合したような「悪魔的」な存在としてとらえた。反対にメキシコの先住民たちは、贖罪と神の許しを必要とした悪魔の使いと見なされた屈辱的な立場を決して受け入れず、逆にスペイン人の侵略者たちの不道徳と悪行を、地元で語り継がれてきた善と悪の戦いの物語のなかに位置づけた。メキシコやアンデス地方の一部の地域では、捧げものをしてまつれば、悪魔は先住民の味方となり、貴重な鉱物の発見、豊作、富などをもたらすとさえ考えられた。

### ◆◆悪魔仮面コンテスト◆◆

この曖昧性は、ゲレロ州にあるメステイーン(混血)の町、テロロアパンで作られる悪魔仮面にもよく表れている。

テロロアパンにおける悪魔仮面の使用は、幾度か流行り廃りを繰り返してきたが、一九七〇年代には悪魔仮面作りが復活し、誰がもつとも恐ろしい仮面を創作し、もつとも効果的に鞭の破裂音をたてることができるといわれるコンテストも、九月一六日のメキシコ独立記念日の祝祭にあわせておこなわれるようになった。このコンテストは、次のような歴史的背景から由来するといわれている。

テロロアパン周囲の地域を副王軍の攻撃から守っていた反乱軍の戦士ペドロ・アセンシオ・アルキシラスの軍隊には、ホセ・アテナシオという、陽気で冗談好きな元ロバ追いがいた。アテナシオはそれまでもよく、ジャガーの皮に付けた悪魔仮面をかぶり、鞭を猛烈にふるって仲間を怖がらせてふざけることがあった。部下のこうした行動を知っていたペドロ・アセンシオは、一八二〇年三月に副王軍によって反乱軍が包囲された際、町に悪魔が徘徊しているという噂を流し、町の女たちに木材を集めさせ、悪魔仮面

を大量に制作した。そうして月のない夜、反乱兵たちは悪魔の恰好で、鞭をふるいながら、町中にあらわれた。悪魔の同時多発に震え上がった副王軍は、とり囲まれ、あつけなく降伏させられた。

### ◆◆ますます複雑怪奇◆◆

みんなく所蔵の二つの仮面は手の込んだ作りであるが、比較的早い時代のもので、イギリスのブライトン博物館にある仮面と同様に、おそらく一九七〇〜八〇年代の制作であろう。収集家の注目を集めるようになり、また仮面コンテストでの競争も激化したため、近年にはますます複雑怪奇な造形になってきている。カナダ、バンクーバーの人類学博物館にある六点などには、蛇の頭やさまざまな動物の角がたくさん付いており、八キログラム以上の重さがある。いずれもジャガーもしくはキツネの皮が付いており、一九世紀の牛追いが着た特徴的な長い革のコート、革手袋、ブーツとともにまとわれる。(翻訳・山中由里子)